

ふれあい

学校だより

川崎市立久末小学校

令和6年1月10日発行

1月

No. 13

今年もよろしくお願ひいたします

令和5年の大晦日は、朝からあたたかな日差しが降り注ぎ、穏やかな1日でした。ところが、翌日、元旦の夕方に石川県能登地方を震源とするマグニチュード 7.6 の大きな地震が発生したというニュースが飛び込んできました。津波による被害、その後も繰り返し発生する地震、現地での復旧作業にご尽力されている様子をテレビなどで見るたびに心が痛くなります。被災された方々、そのご家族、関係者の方々の想いは計り知れないものと思います。また、翌2日には羽田空港における飛行機事故、ここでも多くの被害が発生し、胸が締め付けられる思いです。これらの災害、事故でお亡くなりになられた方、被害に遭われた方々に心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

令和6年、2024年は「辰年」。十二支の中で唯一、空想の生き物である龍(辰)は、天に昇る様子から、中国では古来より成功や発展の象徴として、縁起がよいとされています。昨年度は「新型コロナウイルスの5類移行」に伴い、様々な活動の制限が緩和、解除されました。それを受けて教育活動も従来の形に戻すことができたり、またコロナ禍で発見したことを生かしながら、新しい形を模索したりしてきました。今年も現状に満足することなく、「昇り龍」の如く、子どもたちの勢いを感じながら、教育活動のさらなる充実を目指していきます。

「【自分・人・もの・言葉・時間】を大切に生活しようね」と私は常々子どもたちに話しています。今年の最初の朝会で、「今年も、その中でも【言葉】を意識していきましょう」と子どもたちにお願ひと確認をしました。確認というのは、子どもたちをとりまく私たち大人も【言葉】を大切にしていこうという思いを込めたからです。

私の苦い思い出にお付き合いください。5年生を担任していたときのことです。私は中休みに教室で提出物の確認をしていました。クラスのKさんに「結城先生～」と呼ばれました。「はい、何ですか？」と答えたのですが、「あっ、先生、大丈夫です。やっぱり、あとにします」とKさんはその場を去っていきました。その時の私の様子から、「先生は今いそがしそうだから、あとにしよう」と気を遣わせてしまったんだと思います。その時のKさんの後ろ姿は残像としてあるのですが、こちらを向いている顔を思い出すことができないのです。私は顔を上げることなく、また返事をするのにも少し時間がかかったんだと思います。呼ばれた時に即座に手を止め、顔をKさんに向けられなかったこと、そして、返すにはもっと相応しい言葉があったはずと、何十年もたった今でも後悔しています。

「つかうほど増えてゆくもの かけるほど子どもが育つもの 答えは〇〇」

(「サラダ記念日」で有名な歌人の俵万智さんの短歌から引用)

さて〇〇に入る言葉は何でしょう？

「言葉」です。ご家庭におかれましてはご多用のことと思いますが、ぜひ子どもたちの何気ない話にも耳を傾け、一緒に感動する時間を大切にさせていただきたいと思います。私たち教職員も日々の子どもの姿を価値付け、背中を押せるような言葉がけを心掛けて参ります。今年もよろしくお願ひいたします。

校長 結城 俊一